

病害虫発生予察特殊報(第1号)

平成15年6月2日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名： アルファルファタコゾウムシ
Hypera postica GYLLENHAL

作物名：シロツメクサ

1 発生経過

(1) 平成15年5月19日、相模原市田名の農家から県央地域農業改良普及センターへ、4月下旬ごろから水田(約3a)の畦畔で、育成中のシロツメクサの著しい食害が見られている旨の通報があった。翌5月20日に同普及センター職員が現地で被害を確認し、当該昆虫を採集、病害虫防除所へ送付した。

(2) 5月23日に病害虫防除所職員が現地を調査したところ、採集地を含む相模原市田名の約20haの水田地域ほぼ全域において、カラスノエンドウ、シロツメクサでの同昆虫による食害を認めた。

(3) 横浜植物防疫所に同定依頼したところ、アルファルファタコゾウムシであることが確認された。

(4) 本県での発生は既に2001年に横須賀市馬堀町で確認されているものの、農作物への被害を確認したのは今回が初めてである。

2 形態および生態

(1) 形態

成虫は、体長4.0~6.5mmで、地色は褐色~黒色、体表面は灰褐色の鱗片で密に覆われている。背面中央部は濃色紋となっているが個体変異が大きい。孵化直後の幼虫の体長は約1.3mmで、ほぼ無色透明であるが、成長にともなって乳黄色~緑色を帯びる。老熟幼虫の体長は約10mm、背面中央に縦に白色の線がある。白色、レース状、球形~卵形のまゆを作り、その中で蛹になる。

(2) 生態

年1回発生。2~3月に孵化した幼虫は寄主植物、主にマメ科植物の茎葉や花を食害する。その後、4月下旬頃から、寄主植物の地際部などに繭を作り、その中で蛹化する。5月上旬頃羽化した新成虫は、主にマメ科植物を食害した後、木の皮の亀裂や枯草あるいは建物の隙間などに潜入して夏眠する。夏眠から覚醒後、成虫は11月頃から再びマメ科植物等の葉を食害し始める。産卵は冬から春にかけてみられ、最盛期は2~3月頃で、マメ科植物の茎に口吻で卵室を掘り、産卵する。1雌当たりの産卵数は約1,000個である

3 被害および寄主植物

幼虫及び成虫の摂食が見られた植物として、米国では6科50種、国内では7科30種が報告されているが、寄主選好性の高いものはレンゲ、クローバー、アルファルファ等のマメ科牧草である。特にレンゲの場合、開花期と幼虫の発生ピークがほぼ重なるため、花芽を激しく加害されることがあり、養蜂業への影響が大きい。成虫は、ソラマメ、ダイズ、インゲンマメ、エンドウ、キュウリ、メロン、ジャガイモなどを加害する場合もあるが、実害は少ないとされている。

4 防除対策

(1) 新成虫が発生する5月上旬頃までに、寄主植物であるマメ科植物を収穫・除草するか、耕起・湛水を行う。

(2) 幼虫発生期の薬剤防除

アルファルファタコゾウムシあるいはゾウムシ類に登録のある薬剤

作物名	薬剤名	倍率	安全使用基準
レンゲ(緑肥用)	トクチオン細粒剤F	6kg / 10a	開花前、1回
マメ科牧草	スミチオン乳剤	1,000 ~ 2,000倍	-、-
マメ科牧草	ディプテレックス乳剤	500倍	-、-

養蜂が行われているレンゲ畑では、ミツバチへの影響に配慮し、危害防止に努める。

神奈川県病虫害防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレホンサービス 0463-58-6612
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>